

2022年度 法学部法律学科 入試 Q & A

目次

総合型選抜と学校推薦型選抜の選択について.....	2
総合型選抜	
ゼミナール方式 Q&A.....	3
スポーツ実績方式 Q&A.....	6
芸術・文化実績方式 Q&A.....	8
学校推薦型選抜(公募)	
英語方式 Q&A.....	10
小論文方式 Q&A.....	11
学校推薦型選抜(指定校)Q&A.....	12

Q1 総合型選抜と学校推薦型選抜(公募)のどちらを受けようか、迷っています。

A 自分の得意な領域は何か、より関心を持てる課題・テーマは何か、そして、成績に関する要件を満たしているかを踏まえて、考えると良いでしょう。総合型選抜・学校推薦型選抜(公募)のいずれも、評定平均値の基準を満たしていることが必要です。基準を満たしているかどうか、まず確認しておきましょう。また、総合型選抜のうち、スポーツ実績方式と芸術・文化実績方式では、全国レベルや地方レベルなどでの実績とそれに関する資料の提出が必要です。

Q2 課題・テーマと参考文献について。

A 総合型選抜・ゼミナール方式と学校推薦型選抜(公募)・小論文方式では、課題・テーマと参考文献が指定されます。6月のWEB入試説明会の特設ページで公表します。いずれも社会問題に関する課題・テーマですので、日頃から社会問題について関心をもっているのであれば、課題・テーマに即して自分の見解をまとめるなど、準備しておく良いでしょう。

総合型選抜・ゼミナール方式では、課題について、複数の受験生によるゼミナール(集団討論)を実施します。ふだんから、人の考えを理解したうえで、自分の意見を述べるのが得意な人に向いているといえます。

学校推薦型選抜(公募)・小論文方式では、テーマについて小論文が課されます。ふだんから、自分の意見を文章にすることが得意な人に向いているでしょう。

学校推薦型選抜(公募)・英語方式は、一般的な英語の力が試されます。英語を、しっかりと継続して学習することができており、これまでの頑張りを活かしたいという人は、英語方式を活用すると良いでしょう。

Q3 面接に違いはありますか？

A 総合型選抜・ゼミナール方式では、ゼミナール(集団討論)を評価しますので、個別面接は実施しません。これ以外の入試方式ではすべて個別面接が行われます。

Q4 合格後のこと

A 10月に実施される総合型選抜、11月に実施される学校推薦型選抜(公募)、学校推薦型選抜(指定校)の合格者に対しては、入学準備学習(2回)が用意されています。必ず参加してください。入学までの間、高校での学習に加え、この準備学習を通して、時間をぜひ有効活用してください。英語や資格試験など、比較的時間のかかる勉強を、集中的に行うとも視野に入れてみてはいかがでしょうか。

参考文献について

Q1 指定された課題について、何を用いて勉強すればいいのでしょうか？

A いくつかの文献等を参考文献としています。また、図書館やインターネットで、課題について扱った新聞の社説、雑誌の記事、文献なども探して検討してみてください。

Q2 参考文献はどこで入手できますか？

A 一般的な書店などで購入できます。書店に置いていない場合は注文しなければなりません。

Q3 参考文献はすべて読まなければならないのですか？

A 参考文献ですから、必ず読まなければならないものではありません。とはいえ、課題について学習して理解し、入学試験に向けて準備するのに役立つものを挙げていますので、読むことをお勧めします。

事前学習について

Q4 参考文献を読んだら、どんな準備をしたらよいですか？

A 課題に関していま社会でどんなことが問題になっていて、それに関連してどのような意見が出されているかをノートにまとめてみてください。意見が対立するような論点については、賛成の意見と反対の意見を調べて、それぞれの人たちがどういう理由で賛成・反対を述べているかを理解することが重要です。それをまとめたら、今度は自分の意見を考えて文章に書く練習をしておくといよいでしょう。

「報告要旨」について

Q5「報告要旨」とは何ですか？

A ゼミナール方式では、試験の冒頭に、受験生が1人あたり5分間ずつ課題に関する自己の見解を説明します（「見解説明」）。「報告要旨」は、見解説明の際に、その内容をわかりやすく伝えるために用いる参考資料です。1人が見解説明をおこなっている間、他の受験生は、説明者の「報告要旨」を参考にしながら話を聞いて、内容の理解に努めます。

Q6「報告要旨」はどのように作成すればよいですか？

A 大学所定の用紙(A4サイズ)に手書きまたはワープロで作成してください。ワープロを使用する際には、原稿を所定用紙に貼り付けるか、直接印字してください。

Q7「報告要旨」は文章にまとめるのですか？

A 文章でも、箇条書きでもかまいません。図や表、記号や矢印を用いてもかまいません。自分が見解説明をおこなうときに使いやすいように工夫してください。

Q8「報告要旨」は事前に提出するのですか？

A はい。他の出願資料と一緒に事前に提出してください。提出された「報告要旨」は、大学でコピーして、試験の日、参加者全員に配布します。

参照物について

Q9 ゼミナール方式では、試験の際、指定された参考文献を参照物として持ち込んでよいのでしょうか？

A はい。必要に応じて参考文献を適宜参照しながら試験に臨んでかまいません。参考文献に付箋を付けたり、書き込みをしたりして、試験当日に使いやすいように工夫してもかまいません。

Q10 参考文献以外の資料やメモ等を持ち込んでよいのでしょうか？

A はい。参考文献以外に、たとえば各種の辞典類や自分で作成したノート等も、参照物として持ち込むことができます。内容や分量についての制限は、特にありません。

Q11 携帯電話や電子辞書、パソコン等を持ち込んでよいのでしょうか？

A いいえ。電子機器の持ち込みは一切禁止します。

ゼミナールでの見解説明について

Q12 試験当日に自分の「報告要旨」を差し替えたり、別の資料を配布することはできますか？

A いいえ。見解説明の際には、事前に提出したものだけを使用してもらいます。

Q13 見解説明を行う際に、説明用のフリップボードを用いることはできますか？

A はい。用いることができます。

Q14 見解説明を行う際に、試験教室の黒板やホワイトボードを用いることはできますか？

A いいえ。用いることはできません。

Q15 見解説明を行う際に、プロジェクターを用いることはできますか？

A いいえ。用いることはできません。

Q16 見解説明では、どのような点が評価されるのでしょうか？

A 見解説明では、報告要旨が討議資料として使いやすいものとなっているかどうか、口頭でわかりやすく説明しているかどうか等が評価されます。

ゼミナールでの集団討論について

Q17 ゼミナールでの集団討論は、どのように進行するのですか？

A 集団討論は、大学教員の司会で進行します。受験生の中で自由に意見交換を進めてもらいますが、司会が質問を出して、個別に意見を求めることもあります。

Q18 ゼミナールでの集団討論では、どのような点が評価されるのでしょうか？

A 課題についてよく理解しているかどうか、討論に積極的に参加しているかどうか、他人の質問や意見をよく聴いて討論に生かしているかどうか等が評価されます。

Q19 試験の様子について、もっと具体的なイメージをつかみたいのですが...

WEB 入試説明会の特設ページに掲載する「ゼミナール方式の概要」、「ゼミナール報告要旨（例）」が有用であるため、是非参照してください。

出願資格について

Q1 この入試制度の選考対象となるスポーツ活動は何ですか？

A この入試制度の選考対象となるスポーツ活動は、硬式野球、軟式野球、体操競技・新体操、水泳、陸上競技、サッカー、フットサル、アメリカンフットボール、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、ソフトテニス、テニス、バドミントン、卓球、ソフトボール、ボート、ヨット、ボクシング、レスリング、柔道、空手道、剣道、弓道、アーチェリー、駅伝、ラグビー、スキー、スケート・アイスホッケー、なぎなた、登山、少林寺拳法、スカッシュ等です。

Q2 上記のもの以外は選考対象にはならないのですか？

A 上記のもの以外にも、全国高等学校総合体育大会における開催競技、全国高等学校体育連盟に競技専門部を持つ競技、国民体育大会における開催競技(過去3年間に1回以上、正式競技、公開競技、デモンストレーションとしてのスポーツ行事のいずれかに選ばれたもの)であれば、選考対象となりますので、よく調べてみましょう。また、出願を希望するスポーツ活動が選考対象となるものかどうかについては、本学入学センターに照会してください。

Q3 高等学校の部活動以外での活動実績も、この入試制度の選考対象になるのですか？

A いいえ。高等学校の部活動以外での活動実績は、選考対象になりません。たとえば、地域にあるスポーツクラブ等に所属し、何らかの競技大会等で入賞した実績があっても、高等学校の部活動として挙げた活動実績でないかぎり、この入試制度の選考対象にはなりません。

出願書類について

Q4 出願書類「活動実績を証明する資料」について、大会パンフレットのコピーを送ろうと考えているのですが、そのパンフレットには個人名が載っていません。これだけでも資料になるでしょうか？

A いいえ。「活動実績を証明する資料」については、個人がその大会で実際に活動したことが証明できるものであることが必要です。もし大会パンフレット等に個人名が載っていない場合には、それに添えて、大会出場メンバーであったことを具体的に証明する書類を顧問の先生等に作成してもらい、一緒に提出してください(様式は問いません)。

Q5 「最も大きな競技会名」とありますが、競技会間の序列はあるのですか？

A たとえば、インターハイや国体などの方が、都道府県大会よりも大きな競技会ですが、具体的には出願者が判断することとなっています。

Q6 「活動報告書」の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響により参加できなかった活動について」は該当者のみ記述することとなっていますが、どのような場合に該当者にあたりますか？

A 新型コロナウイルス感染症により、練習を含む活動が制限された場合には記述してください。

「社会問題についての小論文」について

Q7 小論文でとりあげる「社会問題」として、どのような問題を取り上げればいいのでしょうか？

A 社会は、多様な価値観、時には他人を害する考えを持つことのある人間によって形成されているため、対立や紛争、犯罪が絶えません。このような社会を、正義と公正の観点から秩序づけ、国家や他人からの侵害から個人を守るのが法です。このような法が対象とする社会問題のうち、自分が最も関心のある問題を取りあげてください。また、8月のWEBオープンキャンパスで公開される法学部法律学科模擬講義では、「社会問題と法を考える」というテーマで、法学部教員が社会問題と法の関わりについて講義しますので、ぜひ見てください。

Q8 小論文のテーマを決めた後、どんな準備をしたらよいですか？

A テーマに関していま社会でどんなことが問題になっていて、それに関連してどのような意見が出されているかをノートにまとめてみてください。意見が対立するような論点については、賛成の意見と反対の意見を調べて、それぞれの人がどういう理由で賛成・反対を述べているかを理解することが重要です。それをまとめたら、今度は自分の意見を考えて文章に書く練習をしておくといよいでしょう。

Q9 小論文では、どのようなことが評価されますか。

A テーマが適切に選択されているかどうか、内容をきちんと理解しているかどうか等が評価されます。

面接について

Q10 面接では、どのようなことが質問されるのでしょうか？

A 面接の中心は、提出された社会問題についての小論文に関する質疑応答です。また、スポーツ実績および志望理由の内容を確認するための質問をすることがあります。受験生の回答に対して、根拠や理由をより深く尋ねたり、別の角度・立場から質問したりするなどして、より発展的なやりとりへ向かうこともあります。ですから、面接においては、あらかじめ丸暗記したことをそのまま話すのではなく、落ち着いて、臨機応変にポイントを押さえながら、自分の言葉でしっかり答えることが重要です。

Q11 面接に参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

A いいえ。何も持ち込めません。

Q12 面接では、何も見ないで質問に答えなければならないのでしょうか？

A 面接では、出願書類として提出した社会問題についての小論文のコピーを配布します(終了後に回収します)。受験生は、質疑応答の際にそれを参照することができます。

Q13 面接では、どのようなことが評価されるのでしょうか？

A 面接では、テーマが適切に選択されているかどうか、内容を正しく理解しているかどうか、しっかり発言しているかどうか、質問について正しく理解し適切に回答しているかどうか等が評価されます。

出願資格について

Q1 この入試制度の選考対象となる芸術・文化活動は何ですか？

- A この入試制度の選考対象となる芸術・文化活動は、演劇、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・バトントワリング、ダンスドリル、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首競技かるた、新聞、文芸、自然科学などです。これらは、全国高等学校総合文化祭または各都道府県高等学校総合文化祭の規定部門に挙げられているものです。

Q2 上記のもの以外は選考対象にはならないのですか？

- A 上記のもの以外は、選考対象にはなりません。なお、たとえば「和太鼓」は、「郷土芸能」部門に含まれるなど、上記のなかに名前が挙がっていないものでも、いずれかの部門に含まれるものがありますので、よく調べてみましょう。また、出願を希望する文化・芸術活動が選考対象となるものかどうかについては、本学入学センターに照会してください。

Q3 この入試制度の選考対象となる行事・大会等の活動実績として、高等学校総合文化祭の活動実績以外の活動実績、たとえば、「全国高等学校文芸コンクール」、「全国高校小倉百人一首かるた選手権大会」、「全国高等学校文化連盟将棋新人大会」などでの活動実績は選考対象になりますか？

- A はい。高等学校総合文化祭に限らず、それぞれの芸術・文化活動の行事・大会等における活動実績は広く選考対象となります。

Q4 高等学校の部活動以外での活動実績も、この入試制度の選考対象になりますか？

- A いいえ。高等学校の部活動以外での活動実績は、選考対象にはなりません。たとえば、個人として何らかの大会やコンクール等で入賞した実績があっても、高等学校の部活動として挙げた活動実績でないかぎり、選考対象にはなりません。

出願書類について

Q5 出願書類「活動実績を証明する資料」について、大会パンフレットのコピーを送ろうと考えているのですが、そのパンフレットには個人名が載っていません。これだけでも資料になるでしょうか？

- A いいえ。「活動実績を証明する資料」については、個人がその大会で実際に活動したことが証明できるものであることが必要です。もし大会パンフレット等に個人名が載っていない場合には、それに添えて、大会出場メンバーであったことを具体的に証明する書類を顧問の先生等に作成してもらい、一緒に提出してください(様式は問いません)。

Q6 出願書類「活動報告書」の記載欄に「参加した最も大きな行事・大会名(部門)」とありますが、行事や大会等の間の序列はあるのですか？

- A たとえば、全国大会の方が、各都道府県レベルや地区レベルの大会よりも大きな行事ですが、具体的には出願者が判断することとなっています。

Q7 「活動報告書」の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響により参加できなかった活動について」は該当者のみ記述することとなっていますが、どのような場合に該当者にあたりますか？

A 新型コロナウイルス感染症により、練習を含む活動が制限された場合には記述してください。

「社会問題についての小論文」について

Q8 小論文でとりあげる「社会問題」として、どのような問題を取り上げればいいのでしょうか？

A 社会は、多様な価値観、時には他人を害する考えを持つことのある人間によって形成されているため、対立や紛争、犯罪が絶えません。このような社会を、正義と公正の観点から秩序づけ、国家や他人からの侵害から個人を守るのが法です。このような法が対象とする社会問題のうち、自分が最も関心のある問題を取りあげてください。また、8月のWEBオープンキャンパスで公開される法学部法律学科模擬講義では、「社会問題と法を考える」というテーマで、法学部教員が社会問題と法の関わりについて講義しますので、ぜひ見てください。

Q9 小論文のテーマを決めた後、どんな準備をしたらよいのですか？

A テーマについていま社会でどんなことが問題になっていて、それに関連してどのような意見が出されているかをノートにまとめてみてください。意見が対立するような論点については、賛成の意見と反対の意見を調べて、それぞれの人たちがどういう理由で賛成・反対を述べているかを理解することが重要です。それをまとめたら、今度は自分の意見を考えて文章に書く練習をしておくといでしょう。

Q10 小論文では、どのようなことが評価されますか？

A テーマが適切に選択されているかどうか、内容をきちんと理解しているかどうか等が評価されます。

面接について

Q11 面接では、どのようなことが質問されるのでしょうか？

A 面接の中心は、提出された社会問題についての小論文に関する質疑応答です。また、芸術・文化活動の実績および志望理由の内容を確認するための質問をすることがあります。受験生の回答に対して、根拠や理由をより深く尋ねたり、別の角度・立場から質問したりするなどして、より発展的なやりとりへ向かうこともあります。ですから、面接において、あらかじめ丸暗記したことをそのまま話すのではなく、落ち着いて、臨機応変にポイントを押さえながら、自分の言葉でしっかり答えることが重要です。

Q12 面接に参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

A いいえ。面接には何も持ち込めません。

Q13 面接では、何も見ないで質問に答えなければならないのでしょうか？

- A 面接では、出願書類として提出した社会問題についての小論文のコピーを配布します(終了後に回収します)。受験生は、質疑応答の際にそれを参照することができます。

Q14 面接では、どのようなことが評価されるのでしょうか？

- A 面接では、テーマが適切に選択されているかどうか、内容を正しく理解しているかどうか、しっかり発言しているかどうか、質問について正しく理解し適切に回答しているかどうか等が評価されます。

2022 年度
法律学科

学校推薦型選抜(公募)・英語方式 Q&A

英語方式という入試について

Q1 入試では、どのような試験が行われるのでしょうか。また、英語に関するどのような能力が問われるのでしょうか。

- A 大学での学びに対応できる学力があるかどうかを、英語の筆記試験を通じてはかる試験方式です。英語の筆記試験にはヒアリングは含みません。英語の筆記試験に加え、日本語による面接をおこないます。

英語試験について

Q2 英語試験には、文献資料、辞書、ノートやメモなどの参照物を持ち込んでも良いのでしょうか？

- A いいえ。参照物の持ち込みは一切禁止します。

面接について

Q3 面接では、どのようなことが質問されるのでしょうか？

- A 面接は、出願書類として提出された志望理由書にもとづいておこないます。

Q4 面接に参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

- A いいえ。何も持ち込めません。

Q5 面接では、どのようなことが評価されるのでしょうか？

- A 面接では、しっかり発言しているかどうか、質問について正しく理解し適切に回答しているかどうか等が評価されます。

事前の学習について

Q1 資料小論文のテーマについて勉強するのに参考になる文献はありますか？

A いくつかの参考文献を紹介しています。また、図書館やインターネットで、課題について扱った新聞の社説、雑誌の記事、文献なども探して検討してみてください。

Q2 参考文献はどこで入手できますか？

A 一般的な書店などで購入できます。書店に置いていない場合は注文しなければなりません。

Q3 参考文献は、すべて読まなければいけないのですか？

A 参考文献ですから、必ず読まなければならないものではありません。とはいえ、課題について学習して理解し、入学試験に向けて準備するのに役立つものを挙げていますので、読むことをお勧めします。

Q4 参考文献を読んだらどんな準備をしたらよいのですか？

A テーマに関していま社会でどんなことが問題になっていて、それに関連してどのような意見が出されているかをノートにまとめてみてください。意見が対立するような論点については、賛成の意見と反対の意見を調べて、それぞれの人たちがどういう理由で賛成・反対を述べているかを理解することが重要です。それをまとめたら、今度は自分の意見を考えて文章に書く練習をしておくといよいでしょう。

小論文試験について

Q5 小論文試験には、示された参考文献や他の文献資料、辞書、ノートやメモなどの参照物を持ち込んでも良いのでしょうか？

A いいえ。参照物の持ち込みは一切禁止します。

面接について

Q6 面接では、どのようなことが質問されるのでしょうか？

A 面接は、出願書類として提出された志望理由書にもとづいておこないます。

Q7 面接に参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

A いいえ。何も持ち込めません。

Q8 面接では、どのようなことが評価されるのでしょうか？

A 面接では、しっかり発言しているかどうか、質問について正しく理解し適切に応答しているかどうか等が評価されます。

3 分間説明について

Q1 面接の冒頭に行く「社会問題に関する 3 分間説明」では、どのような問題について説明するとよいのですか？

A 社会は、多様な価値観、時には他人を害する考えを持つことのある人間によって形成されているため、対立や紛争、犯罪が絶えません。このような社会を、正義と公正の観点から秩序づけ、国家や他人からの侵害から個人を守るのが法です。このような法が対象とする社会問題のうち、自分が最も関心のある問題を取りあげてください。また、8 月の WEB オープンキャンパスで公開される法学部法律学科模擬講義では、「社会問題と法を考える」というテーマで、法学部教員が社会問題と法の関わりについて講義しますので、ぜひ見てください。

Q2 3 分間説明では、参照物を利用することができますか？

A はい。3 分間説明では、出願書類「社会問題についての小論文」のコピーを配布します。志願者はこれを参照することができます。配布したコピーは試験後に回収します。

Q3 面接にあらかじめ作成したメモや文献資料、パソコン・携帯電話・電子辞書等の電子機器を持ち込むことはできますか？

A いいえ。それらのものを持ち込むことはできません。

Q4 3 分間説明を行う際に、説明用のフリップボードを用いることはできますか？

A いいえ。用いることはできません。

Q5 3 分間説明を行う際に、試験教室の黒板やホワイトボードを用いることはできますか？

A いいえ。用いることはできません。

Q6 3 分間説明を行う際に、プロジェクターを用いることはできますか？

A いいえ。用いることはできません。

質疑応答について

Q7 面接では、どのようなことが質問されるのでしょうか？

A 面接の中心は 3 分間説明についての質疑応答です。また、志望理由の内容を確認するための質問をすることがあります。受験生の回答に対して、根拠や理由をより深く尋ねたり、別の角度・立場から質問したりするなどして、より発展的なやりとりへ向かうこともあります。面接においては、あらかじめ丸暗記したことをそのまま話すのではなく、落ち着いて、臨機応変にポイントを押さえながら、自分の言葉でしっかり答えることが重要です。

Q8 面接では、どのようなことが評価されるのでしょうか？

A 面接では、3 分間説明のテーマが適切に選択されているかどうか、内容を正しく理解しているかどうか、積極的に発言しているかどうか、質問について正しく理解し適切に回答しているかどうか等が評価されます。